

# 第26回大会

日時・昭和57年8月6日

コース・霞ヶ関カントリー倶楽部

(男子東コース6,346m・パー72 女子西コース5,813m・パー74)

## ●男子の部●

①	瀧川 順司 (松江 第一)	36・37(73)	36・37(73)	146
②	米山 剛 (相 洋)	36・38(74)	35・39(74)	148
※③	倉本 泰信 (瀬 戸 内)	40・36(76)	38・35(73)	149
④	山田 好美 (名 電)	38・39(77)	36・37(73)	150
④	青山 裕之 (結 城 第一)	36・36(72)	40・38(78)	150
※⑥	森口 定省 (鹿児島商工)	39・39(78)	37・39(76)	154
⑦	梅本 佳則 (西 蒲)	40・39(79)	36・41(77)	156
⑧	鹿島田明宏 (明大 中野)	38・37(75)	41・41(82)	157
⑧	金谷 健史 (清 風)	40・37(77)	41・39(80)	157
⑧	伊原 健二 (名古屋学院)	41・38(79)	40・38(78)	157
⑧	芹沢 大介 (日 大)	38・41(79)	40・38(78)	157
⑧	川原 実 (観 音 寺 一)	39・38(77)	37・43(80)	157
⑧	中村 宏行 (浦 和 実)	40・40(80)	37・40(77)	157

## ●女子の部●

①	谷 弘恵 (日大桜丘高)	38・41(79)	36	115
②	服部 道子 (淑 徳 中)	40・40(80)	37	117
③	文平 京恵 (家政学園高)	42・39(81)	40	121
④	久松由里子 (上板橋第一中)	43・37(80)	43	123
④	橋本 愛子 (鳴 門 中)	43・41(84)	39	123

前年逆転負けで涙を飲んだ瀧川選手が心憎いばかりに落ちつきはらったプレーで日本一の座を獲得した。女子の部ではここ2年いずれも後半崩れて5位、3位に甘んじていた谷選手が最後のハーフをパープレーにまとめて逃げきった。

# 第27回大会

日時・昭和58年8月9日、10日

コース・霞ヶ関カントリー倶楽部・東コース

(男子6,346m・パー72 女子5,872m・パー74)

## ●男子の部●

※①	川岸 良兼 (小松明峰)	35・35(70)	37・34(71)	35・34(69)	210
②	本多 義隆 (瀬 戸 内)	37・35(72)	36・39(75)	37・37(74)	221
③	鈴木 亨 (名 電)	38・33(71)	39・41(80)	36・37(73)	224
④	川原 実 (観 音 寺 一)	36・36(72)	34・37(71)	38・45(83)	226
⑤	小西 政臣 (埼 玉 栄)	40・37(77)	36・40(76)	36・39(75)	228
⑥	野上 浩一 (埼 玉 栄)	39・37(76)	38・38(76)	38・39(77)	229
⑥	杉山 直也 (成 蹊)	35・38(73)	38・43(81)	37・38(75)	229
⑧	中松 宏次 (甲 南)	38・39(77)	39・39(78)	37・38(75)	230
⑧	依田 祐輔 (高 知 工)	37・39(76)	37・41(78)	38・38(76)	230
⑩	藤田 雅也 (日大鶴丘)	41・39(80)	40・39(79)	37・35(72)	231

## ●女子の部●

①	橋本 愛子 (鳴 門 高)	37・40(77)	38・40(78)	155
②	文平 友恵 (修 学 院 中)	37・38(75)	39・41(80)	155
②	文平 京恵 (家政学園高)	39・37(76)	38・41(79)	155
④	斉藤 美樹 (青山学院高)	38・42(80)	43・38(81)	161
⑤	花田 由紀 (福岡女学院高)	40・41(81)	41・40(81)	162

“怪物”とあだ名された川岸選手が2位に11打差をつけ、大会最多アンダーでブッチ切りの優勝。驚異の飛距離で54ホール中、12のロングホールで8コのバーディーを奪った。女子は橋本選手が3人によるプレーオフを制した。

# 第28回大会

日時・昭和59年8月8日、9日

コース・霞ヶ関カントリー倶楽部・東コース

(男子6,346m・パー72 女子5,872m・パー74)

## ●男子の部●

①	川岸 良兼 (小松明峰)	37・37(74)	34・38(72)	35・41(76)	222
②	北川 裕規 (平 安)	39・35(74)	37・34(71)	37・42(79)	224
※②	野上 浩一 (埼 玉 栄)	35・38(73)	38・38(76)	36・39(75)	224
②	高貝 良樹 (川西緑台)	38・38(76)	37・38(75)	35・38(73)	224
※⑤	手嶋 多一 (田 川)	36・37(73)	36・35(71)	39・42(81)	225
⑥	本多 義隆 (瀬 戸 内)	36・40(76)	37・39(76)	38・36(74)	226
⑥	鈴木 亨 (名 電 工)	37・39(76)	38・38(76)	37・37(74)	226
⑧	北島 泰介 (P L 学 園)	37・38(75)	38・42(80)	36・37(73)	228
⑨	伊沢 利光 (日体荏原)	39・36(75)	38・41(79)	39・37(76)	230
⑩	伊藤 嘉浩 (豊 川)	40・36(76)	39・37(76)	37・42(79)	231

## ●女子の部●

①	喜多 麻子 (聖和学院高)	40・43(83)	35・38(73)	156
②	原田 香里 (平安女学院高)	39・38(77)	41・41(82)	159
③	文平 友恵 (鴨 沂 高)	44・39(83)	38・41(79)	162
④	入江 由香 (福岡当仁中)	41・38(79)	41・43(84)	163
⑤	元田 和恵 (北陸大谷高)	39・44(83)	42・41(83)	166

大本命の川岸選手が苦しみながらもV2を達成。1打差を追ってスタートした最終日は「もうダメだとは絶対に思わなかった」と度胸で逆転した。女子は喜多選手が6打差をハネ返して涙の初優勝。喜多選手はこの縁で川岸選手と結婚している。

※ 印は世界ジュニア日本代表選手